



早通中だより

生徒合言葉：学ぶ早中・明朗早中・鍛える早中

第2号 令和4年3月4日

発行 新潟市立早通中学校

TEL 025-386-7333

早通中HP

<http://www.hayachu.city-niigata.ed.jp/>



◆第38回卒業証書授与式（令和4年3月1日）

○校長式辞

未だ頂に雪の残る二王子の山裾では、気の早い落の臺が芽をのぞかせ、早通の里にも少しづつ春の気配が訪れようとしています。

本日は、ご来賓に米山PTA会長様、並びに学校評議員の皆様のご臨席を賜り、第38回卒業証書授与式を挙げていただきますことを心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。九か年の義務教育を終え、今日、この学び舎を巣立つ皆さんに前途洋々たる未来が待っていることを、教職員一同、心から願っています。

思えば、皆さんの中学校生活は、多くの時間をコロナとの共存に費やさざるを得ませんでした。

世界的なパンデミックの中での事とは言え、中学校の教育活動の中で、最も大切にされるべき、人と人との交わりを大幅に制限されてきました。

学びとは、ただ単に知識や技能を習得するだけのものではありません。社会の中で、人と関わる中で、自らの生活を豊かにするため、何を、どのようにして学ぶべきかを考える力を身に付けていくことこそ大切な学びなのです。

そして、その学びは、授業の中だけでなく、日常の中での小さな体験や、行事などでの大きな体験の積み重ねの中でこそ、身に付けていけるものなのです。

では、皆さんは、他の世代の中学生に比べて、大切な学びが過ぎてしまったのでしょうか。

私はそうは思いません。体育祭の時に生徒会が全校に発した「できないことを悔やおより、何ができるかを考えよう」という呼びかけは、生徒だけではなく、教職員を含めた多くの人の胸に深く染みわたりました。

これまで当たり前だと思ってきた常識や、何年も続いてきた慣習を見つめなおし、今どうすべきか、どんな準備が必要なのかを常に考えざるを得なかったこの二年間は、どの世代の中学生より、皆さんにクリエイティブな力や健全な批判力を身につけさせてくれたと思います。

この時代に、多感な思春期を過ごした皆さんは、もしかしたら十年後の社会で、驚異的な力を発揮する存在になるかもしれません。

およそ十年前に、東日本大震災を経験した東北の若者たちが、今まさに、大リーグやオリンピックで眩いばかりの活躍をしているように。

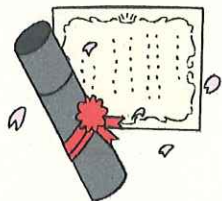
未来に希望をもち、過去を糧とし、今を精いっぱい生きることには喜びを感じられる、そんな社会人になってくれることを心から願います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。義務教育が終了し、今まさに立志の春を迎えるお子様に、これまで影となり日向となって支えてこられたご家族の皆様のご苦勞に心より敬意を表します。

コロナ禍では、子ども達だけではなく、ご家族の皆様にも多大なご負担を強いてきました。とりわけお子様の学校での様子を見ていただく機会が著しく減ってしまったことに対しては、改めて深くお詫び申し上げます。

ご家族の皆様のご理解とサポートがあったからこそ、子どもたちは恙なく学校生活をおくることができました。教職員一同、心より御礼申し上げます。

最後に、早通中学校の今年の3年生が、この79名の皆さんでい



てくれた奇跡に心から感謝し、式辞の結びといたします。

令和4年3月1日

新潟市立早通中学校 校長 永川 幸洋

○答辞（卒業生代表 3年1組 美濃 優空さん）

冬の寒さも和らぎ、空が春の日差しに満ち溢れてくる季節となりました。本日は私たち卒業生のために、コロナ禍でもこのような場を設けていただき誠にありがとうございます。

3年前、私たちはさまざまな思いを抱いてこの早通中学校に入学しました。慣れない環境に戸惑いながらも先輩方の姿をみならい、仲間とともに切磋琢磨し合い、今日まで過ごしてきました。あれから三年間、数えきれない思い出とともに私たちは成長してきました。



体育祭では多くの仲間とともに一つの目標に向かい努力することの大切さを学びました。合唱祭では勝つことだけが全てではないことと、自分の想いを相手に伝えることの難しさと大切さを学びました。

そして2年前からたくさんの方がコロナウイルスの影響で制限され、悔しい気持ちややるせない気持ちもありましたが、今まで当たり前だと思っていた日常が幸せだったと気づきました。

私たちがこれまで多くのことを学び、成長できたのは多くの人の支えがあったからです。

まずは地域のボランティアの皆さま、私たちを学校の外から支え、見守ってくださりありがとうございます。

1、2年生の皆さん、今まで私たちについてきてくれてありがとうございました。これからは皆さんが早通中学校を引っ張っていく番です。皆さんなら、きっとより良い早通中学校をつくってくれると信じています。失敗を恐れずたくさんの方に挑戦してってください。

早通中学校の先生方、いつも温かく指導していただきありがとうございました。先生方はどんな時も私たちと真摯に向き合い、時には厳しく指導してくださいました。先生方から教わったことを決して忘れず、これからの人生に生かしていきたいと思えます。



そして15年間私たちを一番近くで見守ってくれたお父さん、お母さん、今日まで育ててくれてありがとうございます。今まで心配や迷惑をたくさんかけてきました。この先もかけてしまうかもしれませんが、これからもよろしく願います。

今日私たち79名はこれまで学んだことや未来への希望を胸にこの早通中学校を卒業します。この先様々な困難に直面しても、学んだことを生かし、乗り越えていきたいと思えます。

最後になりましたが、今日まで支えてくださった皆様に改めて感謝を申し上げますとともに、早通中学校の更なる発展をお祈りして答辞とさせていただきます。

令和4年3月1日

卒業生代表

美濃優空

◆送辞・答辞

○送辞（在校生代表 2年1組 櫻井 颯夏さん）

厳しい寒さが続いていましたが、太陽の光から春の暖かさを感じられる季節となりました。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。このような佳き日に、79名の皆さんがご卒業されることを在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、度重なる悲しいニュースの数々に何度も挫けそうになるところがありました。その中でも先輩方の、諦めずに少しでも多くの日常を取り戻そうと努力する姿に、私たちは励まされました。

9月の体育祭。今年度は感染症対策のため声を出せず、思うようにいかないこともありました。そんな中でも、青連合は応援の際使う道具を新しいものに変え、赤連合はパネルだけでなくもうひとつのオリジナルのパネルを用意し、緑連合は隊形を蝶の形にするなど複雑にしていました。そのような工夫によっていつもとは一味違う体育祭となりました。

十月の合唱祭。今年度から賞をなくしての合唱祭でした。新たな挑戦にもかかわらず、臆せずに進もうとしている姿や一生懸命綺麗なハーモニーを奏でている姿に感動しました。

そして部活動では制限により活躍の場を失ったとしても自分たちでできることを見つけ、仲間を鼓舞し引っ張っていってくれました。

そんな懸命な姿に私たちは前を向こうと思えるようになりました。たくさんの方が勇気づけられたと思います。そしてみなさんのおかげで笑顔で楽しく過ごすことができました。本当にありがとうございました！



私の大好きな歌に「サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢へと僕らをつなぐYELL」というフレーズがあります。今日、先輩方は多くの人に「サヨナラ」という言葉をかけると思います。そのときにこの歌詞を思い出してみてください。「サヨナラ」という言葉は夢とみなさんを繋ぐYELです。先輩方一人一人の夢が叶うことを、在校生一同応援しています。

そして今日は私たち1、2年生が3年生からバトンを渡される瞬間でもあります。先輩方から学んだことを生かし、より良い早通中学校にできるよう精一杯頑張っていきます。

最後になりますが、くれぐれもお体に気をつけてそれぞれの道で輝き続けてください。

これからのご活躍を祈念し在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和4年3月1日

在校生代表 櫻井 颯夏



◆ 第38回卒業証書授与式スナップ

(1) 1年生製作「黑板アート」



3年1組教室



3年2組教室



3年3組教室



(2) 2年生「授与式場等」



授与式場前景



要覧作成風景